平成26年度

施政方針

施政方針演説をする神園市長

平成26年枕崎市議会第2回定例会が2月28日招集され、神園征市長が平成26年度の市政運営についての施政方針演説を行いました。その一部を抜粋して紹介します。

私は、去る1月19日に行われました市長選挙において、市民の皆さんからの信任を得て、引き続き市政を預かることになりました。

さきの任期において手がけてきた事業の進捗（しんちょく）・完成に、継続して努力を積み重ねるとともに、今回の選挙において市民の皆さんに訴えてきた「枕崎の宝を活かし元気になる政策の実現」に邁進（まいしん）してまいりたいと考えております。

そこで、新年度の施政方針については、これまでの市政の進捗状況や成果を振り返るとともに、今任期で目指すまちづくりの主な施策を含めて申し上げます。

まず初めに、昨年末に市内16団体の参加を得て「枕崎漁港コンテナヤード整備促進協議会」を設立しました。このコンテナヤード整備は、本市の地場産業が抱える輸入加工原料の運送料負担の軽減とともに、地場産品の輸出可能性を飛躍的に高めるものであります。

枕崎漁港にコンテナヤードが整備されると、地場産業の振興はもちろんのこと、本県に進出する意向を持った企業の本市誘致にも大きな力となります。

地場産業を振興し、企業誘致を推し進めることにより雇用の場を確保・増大し、これまで流出が続いていた若い世代の定着を促し、本市活性化の柱にしたいと考えております。

次に、同じく昨年末に市内の各団体がともに力を合わせて立ち上げた「コンカツ（昆鰹・婚活）プロジェクト」は、稚内市の協力も得て、本市特産の鰹節と稚内市特産の利尻昆布を融合させ、和食の基礎をなす出汁（だし）の文化を発信することで、地場産業の振興を図ることのみならず、加えて、商工業や酒造業、観光・サービス業など、あらゆる業種に及ぶまで「昆鰹（婚活）」をテーマに様々な取組を展開するものです。

同時に、このプロジェクトは、若者の結婚活動、いわゆる「婚活」の拠点も併せて整備することで人口定着を目指しながら、さらに観光施設としての情報発信も行い、交流人口の一層の増大も目指そうとしております。

本市としても、このような民間の活力を取り入れながら、ますますの地域の活性化を図ってまいります。

昨年は、「枕崎駅舎の完成・オープン」をはじめ、「駅舎前広場整備の継続実施」、さらには本年2月4日に行われた「指宿のたまてばこ号の枕崎駅までの臨時運行」など、我が市の観光の魅力を発信する事業に多くの取組成果が見られました。

このほか、本年9月に運転を開始する空港跡地のメガソーラー施設に隣接して南薩エアポートが設置する「枕崎天文台」も、本市の新たな魅力を発信する拠点になると考えており、観光振興の素材作りが整いつつありますので、こうした取組を見据え、本年を「更なる観光振興元年」と位置付け、枕崎市観光協会との協力・連携を一層強化する中で、より広く本市の魅力を発信すると同時に、県の魅力ある観光地づくり事業による本市観光拠点の整備も引き続き要望してまいります。

さらに、地場産業及び商工業の振興に関しては、新たに「地元企業・事業者の新規の雇用創出に対する助成制度」を創設し、若者の定着を促す施策を展開するとともに、商工業・サービス業振興のため「店舗の改装・改修時の金融機関からの借入金利への助成制度」も創設したいと考えております。

農業の振興については、今年、本市で開催される「鹿児島県茶業振興大会」の成功を期するとともに、「本市の農産物の消費拡大に向けた運動の推進」と「茶業、園芸における優良品種の導入」、「高品質の農畜産物を生産するための基盤整備に対する支援」など、先進的農業と農産物の安全の推進に、これまで以上の取組を行ってまいります。

続いて、教育・福祉について申し上げます。

一昨年来、議会及び市民の皆さんに御議論をいただいておりました金山小学校の桜山小学校への統合については、4月から統合後の新桜山小学校がスタートします。金山校区の児童の通学には不便がないように、新年度から「スクールバスを運行」するとともに、新桜山小学校の運営については、統合の影響がないように細心の注意を払ってまいります。

また、廃校後の金山小学校の跡地利用については、地元住民の皆さんの御意見も伺いながら、新年度中にその活用方法を見いだしたいと考えております。

昨年、枕崎小学校の皆さんが出場した「集団行動全国大会」では、見事に全国1位の栄冠を勝ち取りました。「地方の小さな学校でも、頑張れば全国1位になれるのだ」という、この気運を活かし、市内の各小中学校にも広めていく施策を検討したいと考えております。

さらに、市内小中学校の老朽化した体育館については、児童生徒が安心して利用できるように、「天井及び照明施設の落下防止改修工事」を集中的に実施します。

「子ども医療費助成事業」の対象年齢については、市民の皆さんにお約束したとおり、「中学校修了までの拡大を新年度から実施」してまいりますが、制度拡大に伴うシステム改修等の都合から、7月診療分からの実施になります。

「小児医療体制の充実」については、既に市立病院において「病児・病後児保育施設」の設計に取り掛かっており、建設に当たっては、効率的な投資となるよう臨みたいと考えております。なお、ウイルス性の流行疾病が増える寒冷期には稼働ができるよう進めてまいりたいと考えております。

また、平成25年度から庁内で「地域包括ケアシステムの研究・検討」に取り組んでまいりましたが、新年度は「第6期介護保険事業計画」の策定と並行して、「地域包括ケアシステムの構築」に向け、関係機関と連携を取りながら組織体制も含めて検討を進めてまいります。

さらに、乳がん検診の受診率向上を目指して「市民の自己負担に対する助成」を実施するなど、これまで以上に、教育・福祉の充実に力を注がなければならないと考えております。

社会基盤・生活環境の整備については、老朽化が進む公共施設や設備の計画的な改修に備え、既に庁内に「枕崎市公共施設の在り方検討会を設置」しており、今後、市役所庁舎の耐震診断を行うほか、各施設の役割や利用状況を踏まえた検討を行い、早急に耐震対策等の対応を図るべき施設、今後財源等の状況を見ながら対応を図る施設、さらには廃止すべき施設等の峻別（しゅんべつ）を進めて対応を図ることにより、社会基盤の安全性の向上を図るとともに、「市営住宅の長寿命化計画」に沿って「市営住宅の長寿命化工事」を行うほか、「橋梁（きょうりょう）長寿命化修繕計画に基づく橋梁補修の詳細設計」や、「公園施設長寿命化計画」の策定も行っていかなければなりません。

消防業務については、本市の消防団活動が高く評価され、去る2月17日に本市消防団に総務大臣感謝状が贈呈されました。今後とも、「消防無線のデジタル化事業」など、様々な災害に備えた「機動力のある防災・減災システムの構築」にも配慮し、市民の安全・安心の向上に努めます。

「南薩縦貫道の完成」は、私の今任期中に完成の運びですので、快適な道路環境となるように、引き続き県への要望活動を行ってまいります。また、「国道225号峯尾峠の改良」については、平成25年度に鹿児島国道事務所が登坂車線設置に向けて測量設計を行っておりますが、新年度は、いよいよ事業実施に向けて取り組む予定になっております。

また、生活環境の整備については、「生活環境の中の悪臭解消や汚濁（おだく）された河川の水質改善などのために引き続き努力を重ねる」とともに、市・事業者・関係機関並びに市民が一体となって、その取組を強化していかなければなりません。

ここまで、様々な施策の必要性について述べてまいりましたが、これらの事業を実施するためには、職員の意識改革を図りながら、職員から出された改善案・改革案を盛り込んだ「第3次行財政集中改革プランを新年度に策定」し、行財政改革の具体的な取組を着実に推進することで財源の確保を図り、さらには、議会と行政当局、そして市民の皆さんが、ともに力を合わせ、知恵を出し合って、さきに述べた施策の全てを1日も早く実現できるよう努力を重ねていかなければなりません。

今後は、市民と行政の協働の機運を高めるために、「自ら各地域の活性化を目指す自治公民館の独自活動や、その他の市民活動には積極的な助成」を行っていきたいと考えております。

※施政方針の全文は、市ホームページに掲載しています。【市政・サービス→市長あいさつ→平成26年度施政方針】